



一般社団法人

富山県作業療法士会 ニュース

平成25年度 No.4

第111号 平成26年2月3日

発行 富山県作業療法士会

会長 田村良子

印刷 株式会社エツ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>

富山県作業療法士会会員数：522人

第13回 東海北陸作業療法学会を終えて

学会長 砂原伸行



平成26年という新しい年を迎え、会員の皆様におかれましては新たな目標に向かって日々の業務を進めておられるかと存じます。さて、

昨年は第13回東海北陸作業療法学会が開催され、皆様ご存知のように盛會に会を終了することが出来ました。スタッフとして、ご協力頂きました会員の皆様方、大変ご苦勞様でした。特に準備期間より御尽力頂きました、各運営部門の責任者の皆様方におかれましては、大変なご苦勞であったかと思ひます。私は学会長という貴重な経験をさせて頂きましたが、その中で何よりも富山県士会員のパワーを感じました。普段は控え目な県民性というのでしょうか、やる時はやるぞ、という意気込みが随所に見受けられたかと思ひます。昨年の流行語大賞の「いつやるの、今でしょ」「お・も・て・な・し」の二つは少なくとも、本学会に当てはまったのではないのでしょうか。そして懇親会での予想外の盛り上がりは「じえじえじえ」でしょうか？(笑)。

さて、学会運営に関しましては、まず本学会はホームページ上からの演題登録システムの採用など、全国学会と比べて遜色のない程にインターネットを駆使してのシステム運用に配慮して参りました。前回の7年前と比べて格段に情報のやりとりの迅速化が求められる中、時代の流れに即応した対応を心掛けたつもりです。システム運用の確立にご尽力頂きました関係の方々に改めて感謝申し上げます。また、本学会は2年前から構想委員会を立ち上げ、次の世代での学会運営に繋がるよう計画して参りました。運営上のマニュアル作成や、各部署での委員会の招集など、細かい点で、特に富山県士会の若いスタッフの皆様方には、ご負担をおかけした点が多々あったかと思ひます。しかしながら、普段学会参加した際には気づくことが出来ない側面から学会に関わることが出来たことで、得られた成果も何かしらあったのではないのでしょうか。

昨今は、いろんな情報のやり取りにインターネットが使用されるご時世です。その利点は大きいがありますが、人と人が直に会って顔が見える交流をするというのは大切なことです。もちろんスカイプなどを使えば、顔も見えるわけですが、生の臨場感を持って人と人が接するというのは、人間固有のコミュニケーションの原点と思われまふ。学会では多くの方が一堂に会して、情報・意見のやり取りを行います。耳学問というのもあり、他の人同士が意見交換をしているのを聞き入って、情報を得るといふことも可能です。演題発表をしたり、質問したり、スタッフとしていろんな事柄に臨機応変に対応することなど、作業療法の創成期から繰り返して行われてきたことです。専門職は日々の研鑽も重要ですが、学会という場に身を放り込み、自らの飛躍的な成長を促すことも必要です。士会員の皆様方におかれては本学会において、何か一つでも課題を持ち帰ることが出来たでしょうか？演題発表以外にも、多くの講座、講演がありましたので2ヵ月以上たった現在すでに日々の臨床において、課題を取り組んでいる会員が増えていることと期待しています。本学会での成果が作業療法を必要とする方々にうまく還元されていくことを願っております。

さて7年後には再び富山にこの学会が戻ってきます。くしくも7年後と言え、2020年東京オリンピックの年となります。7年の間に作業療法の分野でも、新たなブレイクスルーが生じて、予想しない事柄がテーマとして選ばれているかもしれません。それはそれで楽しいことですが、7年後の学会運営にあたられる次の若い世代の方に充分知恵を出して頂きたいと思ひます。若いスタッフの皆さんには、本学会においていろんな面でご負担をおかけしましたが、今回の成果を反省点も含めてきちんと残して、皆さんに伝えていくつもりです。7年後には良い意味で「倍返し」をして頂ければ、われわれ運営委員にとってこの上ない幸せであります。

第13回 東海北陸作業療法学会を終えて —80点の及第点—

運営委員長 小倉 努（黒部市民病院）

2年間の準備期間を費やした「第13回東海北陸作業療法学会」を無事に終える事ができました。

9つの講演・シンポジウムと121演題の発表、JICA-JOCVの活動報告を柱に企画密度の高い内容を組み実行しました。ちなみに、予算規模は610万円でした。僕の記憶が正しければ、一事業としては県士会史上最大であると思います。思い起こすと言い尽くせぬほどの課題に取り組んできました。今回、改めてご挨拶する機会を得たので、学会運営を通して学んだことや気づいたことを書き示したいと思います。また、今報告が県士会事業に良い影響を及ぼすことを願いつつ、話題を絞ってお伝えしたいと思います。

閉会式を終えた後、最後のミーティングの場には約150名の会員さんが残ってくれていました。田村会長・砂原学会長の閉会挨拶を受けた後、僕は一言だけ感想を述べました。「今学会を終えての達成感・満足度はどの程度でしょうか？」の問い掛けに、多くの方がそれぞれの立場・役割から結果の値や順位を考えたことと思います。運営委員長の本懐は全体統括にあります。冒頭に述べた通り、多くの課題・問題に関わり解決に向けて奔走しました。一連の結果から言葉にしたのは「及第点」という表現でした。悪い意味での及第点ではなく、よく頑張った及第点で70～80点というのが率直な意見です。ご協力いただいたみなさんに向けて深い感謝を表明した通り、喜ばしい結果です。さて、漠然とした結果を示しましたが「80点の及第点」を説明し、納得いただけるようにしたいと思います。

昨年、香山明美協会理事とお話しする機会を得ました。香山先生は宮城県在住で先の震災により被災されました。被災後の生活は迷いの渦中にあったとお聞きしました。話は進み僕にひとこと「作業療法士ならば、迷ったら患者に向き合いなさい。」と言われました（協会ニュースでも同じように訴えておられます。）今学会の準備を通して、連日「問題」が飛び込んできました。例を挙げると「〇〇に話が行っていない。」「〇〇はどうしますか。」などです。共通のカテゴリーは準備を進める上での「問題」です。しかも極小さな「問題」です。香山先生のことばを言い換えると「作業療法士は（自ら）問題に気づき、解決する。」のが仕事です。「問題」に直面しているのに、対策を図らず問題のみを訴える行動が多かった事実は、差し引くべき部分です。気づいた時点で解決に向けて自らも取り組む姿勢が備われば、より円滑な運営が成されたはずだと思います。ひとりがちょっとずつ配慮することで、大きな成果が期待できると思えました。

2点目に移ります。直面した「問題」を解決するには、正しい手段が必要です。認知運動療法の宮口英樹先生にご講演いただいた昨年、ご一緒した時間の中で非常に多くの話を伺いました。先生は認知運動療法のみならず、リスクコミュニケーションにもご尽力されており、リスクに対する構えの話が参考になりました。「鍛えられた作業療法士は、想定されるリスクを瞬時に幾つも挙げる事ができる。しかも落ち度がない。しかしキャリアの浅い作業療法士はリスクを挙げるのに時間が掛かり、しかも抜けている項目がある。」キャリアの境目は明確にできませんが、熟練者であれば直面した問題をより良く解決する手段を瞬時に挙げ、行動に移れると思います。上の者は「対策」という引出しをたくさん有し、必要に応じて正しい解決手段を繰り出す力を備えなければ（今回のような事業の中で）大きな役割を果たすことはできません。見方を変えますが、若い方々には5年後、10年後に解決手段をたくさん備えた人物になれるよう、成長していただきたいと思います。しっかりとした運営には人材が必要です。今回はみなさんに頑張ってもらいましたが、一部の方々に負担が集中するという良くない面がありました。運営に関わる人材が増えれば、よりよい運営に繋がったと思います。

以上、挙げた2点がより機能すれば、より満足度の高い事業（学会）にできたというのが感想です。最後に7年後に向けて、また今後の県士会活動に充てて、会員諸氏にひとことお伝えいたします。紙面の都合上、端的に記します。①県士会員に必要な基本的な姿勢は「仕事をする・県士会活動をする・研究（発表）をする」だと思います。特に「研究（発表）をする」は、困難・複雑な作業を処理する上で、許容範囲を広げ、思考を磨き（意味・理由を捉える）、説明する力が備わります。他にも挙げますが、人の能力値が伸びることは間違いありません。3拍子を備えた会員を育成することが、事業の充実に必要不可欠だと思います。②前述の人材育成を進めつつ、東海北陸学会に対しては、会期の2年前より委員会（構想・運営どちらでも可）を立ち上げる。そして、運営組織を練ることが再成功への入口だと思います。

運営委員長の一言としては、やや手前勝手ともとれる内容を含みますが、迷いながらもやり遂げた結果、見えたものを率直に書かせていただきました。ご理解いただきたいと思います。そして再び、今回のような大事業が富山県の方で成し遂げられるよう、会員それぞれが成長されることを祈ります。改めて関わったみなさま本当にありがとうございました。良い思い出ができました。

東海北陸作業療法学会に携わって

川田病院 磯部美和子

今回の東海北陸学会には構想委員から参加し、その後は運営委員の一人として関わらせていただいた。第1回構想委員会から学会当日まで約2年間の月日をかけて準備に取り組んできた。資料を閉じたファイルの厚さが多くのことを議論してきた証拠として手元に残っている。私は運営委員の中では一番若手であったが、自分の意見をきちんと発言する機会が与えられ、それを受け止めたうえで議論、検討していただけたので組織としてはとても動きやすかった。心の広いすばらしい運営委員に囲まれたことにとっても感謝している。

当日はあれだけの時間をかけて準備をしてきたが、予期せぬことも起きたりでとにかく会場中を走り回っていた。その結果、2日間で合わせて約4万歩歩いて（走って）いた。その動きが効率的だったか、必要だったのかはさておき、その運動量だけは自分を誉めてあげたいと思う。何年か振りにポスター発表も行った。運営委員をしながらの発表は想像以上にしんどかったが、自分の臨床

実践を発信するという重要性を再確認することができた。

振り返ると多くの人に支えられ、助けられてなんとか自分の役割を果たすことができたと思っている。「今回一緒に仕事できてよかった」と数人の方からありがたい言葉をいただいた。その言葉を今回関わらせていただいた方々にそのまま返したいと思う。運営委員の仕事量はとても多く、休みを返上することもあり大変だったのは確かだが、それ以上によい出会いがたくさんあり、自分自身の成長を感じることができたし、今回の経験はすべてが今後の自分にとってプラスになるものであると思っている。

私は6年前に実家の高岡にUターンし、富山県士会の所属となった。新人で県士会に入るのとは違い、他の県士会員と交流する機会が少ないように感じていた。今回できたつながりを大切に、自分のできることは積極的にを行い、県士会活動に協力していけたらと思っている。

東海北陸学会に参加して

社会福祉法人セーナー苑 岡部 愛

平成25年11月2日～3日まで富山国際会議場にて開催された、第13回東海北陸学会に参加・発表をさせて頂きました。学会では「連携を生み出すカー作業療法士が展開する他職種、多職域間の協働」というテーマの下、公開・技術講座、教育・特別講演、シンポジウムに加え、口述・ポスター発表と充実した内容でした。

今年は富山県が主催とあって、昨年度より公開技術講座の運営準備も行っていましたが、まさか自分が発表者として参加することになるとは思っておらず、正直不安で一杯でした。発表では「作業活動を通して活動意欲が向上した症例」という演題で口述発表を行いました。今回が初めての発表であったため、何をどのように準備すれば良いのか…また、OTとして自分が出来た事は何かあったらどうか…と戸惑うばかりでしたが、職場に限らず他施設の先生方にも協力をして頂き、何とかまとめる事が出来ました。

学会1日目は、楽しみにしていた板垣先生の公開技術講座や山根先生の教育講演も聞くことが出来、とても貴重な経験となりました。学会2日目、メインホールの広さに不安を煽られながら、発表を迎えました。発表では緊張のあまり、喉がカラッカラになってしまいましたが、気持ちを落ち着かせながら無事に終える事が出来ました。発表に至るまで不安も沢山ありましたが、症例さんの変化や背景、自分が行ってきたアプローチについてじっくり振り返る事が出来ました。

今回、東海北陸学会に参加して、沢山の講義や事例報告を見ることができ、とても充実した時間を過ごせました。また発表では職場の先輩や職員に限らず、他施設の先生方と多くの方々に協力して頂いた事で、無事に発表を終えると共に、多くの事を学ぶことが出来ました。お忙しい中多くの時間を割き、沢山のご意見やアドバイスを下さった先生方に感謝致します。

第13回 東海北陸作業療法学会（富山学会）の印象記

金沢大学 柴田克之

私は2度目となる富山学会アドバイザーとして、準備の段階から適宜意見を伝えさせて頂き、開催両日は学会運営を間近で見守り参画することができた。近年の東海北陸作業療法学会の参加人数は漸減傾向にあり、500名以上（去年の静岡学会を除く）を集めることが困難と囁かれていた。こうした状況を鑑みて富山学会の目標演題数も当初は70-80演題に達すればよいと想定していたが、実際の登録数は予想を遥かに越え、過去最高の122演題となった。言うまでもなく、この演題数を受けて参加した会員は650名（富山310名、石川100名、愛知75名、以下、三重、静岡、岐阜、福井40-30名）を越え、富山学会を成功裏に終えることができた。

本学会を成功に導いた要因は、大きく分けて2つの要因が考えられる。1つは日頃から富山県は県学会、研修会への参加意欲が高い士会であるが、遡ること開催2年前から各領域のベテランOTが新人OTを対象に、学会に参加する意義とは？発表のメリットと勧めなどに関する研修会を行い、

少しずつ県内における学会発表と参加の意識を高める素地を作ってきたこと。2つ目は従来までの慣例となっていた華美な企業展示をやめ、教育・技術講座を含めた、学術的なプログラムのみに焦点化したこと。参加者は各講座や発表に専念できることから、どの会場も新人から中堅のOTで満席となった。熱心にメモを取る姿、臨床疑問を解くための本質的な質問をする姿を見て、若手OTの頼もしさを感じると同時に、自らの知識や経験をブラッシュアップする貴重な2日間であった。

懇親会では、参加者全員で越中おわら風の盆を踊り、富山弁クイズで笑い、静かにコーラスに耳を傾けるなど、手作り感溢れる富山のOTの心のこもった「おもてなし」を受け、改めて富山県士会の控えめな美学と力強い組織力を感じる学会であった。

さて、3年後の石川学会は、私が学会長を担当することになります。富山県から多くの演題および参加者を期待しております。富山県OTの皆さん、本当にお疲れ様でした。

会員異動等

種類	氏名	旧所属	新（現）所属	備考
異動	林 真奈未	リハビリセンター あんじゅーる	かみいち総合病院	
改姓	城 戸 麻里子		介護老健 アメニティ月岡	旧姓 熊本
改姓	作 田 裕 子		西能みなみ病院	旧姓 松田

誤りがありましたので、お詫びして訂正します

種類	氏名	旧所属	新（現）所属	備考
異動	小 川 恵 理	南砺市訪問看護ステーション	シルバーケア羽根苑	

新入会

氏名	新所属	
大 西 祐 子	社会福祉法人 マーシ園八乙女	経験者
島 林 雅 帆	八尾老人保健施設 風の庭	経験者
堀 侑 加	介護老健 葵の園なんと	経験者

こんにちは。当施設は高岡駅から車で5分以内に位置し、周辺にはイオンモール高岡があり、平成26年には新幹線の駅も近接され、今後益々発展していく、とても交通の便が良い所にあります。ちなみに「あ・お・ぞ・ら」ではなく「お・お・ぞ・ら」ですので、お間違えになりませんよう宜しくお願い致します。

施設概要としましては、平成2年に開設し、入所（100名）、通所リハビリテーション（40名）、グループホーム（9名）、ケアハウス（24名）、在宅介護支援センター、地域包括支援センターと多様な部署があります。母体である光ヶ丘病院には、訪問リハビリや訪問看護もあり、総合的に支援していける体制が整っています。

施設行事には、誕生会、納涼祭、春と秋の作品展、お茶会等があります。特に納涼祭では全職員やボランティアの方々が一丸となって取り組み、ゲームや模擬店を行ったり、毎年恒例の職員による九州炭坑節を披露しています。御家族の方も参加され、利用者様はとても楽しんでおられます。

通所リハビリは平成13年に増設し、スタッフはPT2名、OT2名が勤務しています。タイムスケジュールとしては、午前個別機能訓練、午後集団体操・レクリエーション・作業活動・クラブ活動（習字・手芸）・パワーリハビリを行っています。他職種との情報交換を密にとり、利用者様の在宅生活に沿ったリハビリを行っています。

入所のリハビリスタッフは、PT2名、OT1名が勤務しています。リハビリでは主に身体機能

訓練・ADL訓練・作業活動を行っていますが、生活リハビリを念頭に置き、リハビリ室だけでなく各フロアでも行っています。また、移乗ラウンドを月に1回行い、看護師や介護士と共に利用者様1人1人に合った移乗方法を確認したり、情報提供をしています。通所リハビリ・入所共に認知機能へのリハビリとしては、公文式の学習療法を取り入れています。

また、ST1名が勤務していますが、通所リハビリと入所を兼務しています。言語訓練や摂食嚥下訓練の他に、通所リハビリでは月2回の口腔機能向上訓練にも積極的に取り組んでいます。

これからも利用者様が、安全に安心して在宅や施設生活が続けられるように、そして1人でも多く早期在宅復帰が出来るように、リハビリスタッフだけでなく他職種とも一層連携し、頑張っていきたいと思っております。



平成25年度 第5回理事会

場所：富山医療福祉専門学校会議室

日時：平成25年10月7日(月) 19:00～

参加者：田村、作田、浅生、田邊、谷口、高林、松岡、松本、丸本、吉波、広野

以下の事について検討した。

〈検討事項〉

1. 来年度の東海北陸作業療法学会（三重県）の企画－広報関係の情報交換としてポスター、口述での発表について富山県士会の活動報告はできるが、学会でやることなのか検討が必要。
2. 来年度県士会学会－新川地区担当。学会長を山崎氏（かみいち総合病院）に打診。

3. 福祉用具相談支援システム運用事業－担当の澤木氏より県内のアドバイザーを数名増やしたい→IT、スイッチ関係では浅生氏（国立病院機構富山病院）を推薦。その他高志リハ病院をあたる。システムの広報用チラシの作成（印刷費は協会負担）をし、ホームページにも載せる。
4. 27年度以降の全国研修会の担当－26年度は青森、奈良県で開催。27年度はまだ開催県は決まっていない。新幹線が開通すれば担当する予定にしていたので引き受けても良いのでは。東海北陸学会の開催で運営には慣れてきている。引き受けることになれば27年度の県学会は無しにしたほうが良いのではないかと。

5. WFOT2014開催にあたって寄附をしてくれる施設の紹介依頼東海北陸学会の協賛金も予算の半分以下しか集まらない現状であり、紹介は難しい。

〈報告事項〉

1. 特別支援学校のセンター的機能充実事業実施状況－県内特別支援学校12校、56回のOT派遣依頼。発達障害部会で担当者を調整し対応。
2. ほたるいかマラソンにおける広報活動－ボランティア31名、ランナー5名参加。作業療法士のぼり旗、ワッペン使用。
3. 作業療法見学&体験会8月25日（厚生連高岡病院）、9月29日（チューリップ苑）実施。約40名の参加。TVニュース、新聞記事に掲載。
4. 第14回介護保健推進全国サミットinなんと－10月17、18日開催
5. 生活行為向上マネジメント研修会（8月、東京）－松岡氏参加。推進委員として今後普及のための研修会企画等をしていく。
6. 東海北陸作業療法学会進捗状況
 - ・座長への公文書、各県士会事務局へプログラム送付。
 - ・演題数多いが、抄録1演題1ページにしたため学会誌が厚くなる。
 - ・11月1日17時より準備、動線確認。
7. 愛知県士会より東海北陸ブロックリーダー研修会－H26年3月8、9日の連絡
8. 訪問リハ研修会－6月30日に開催したが、1日では内容が不足。26年2月2日にも県立中央病院にて開催
9. 全国生涯教育推進委員会
 - ・全国的には基礎コースを終えていない人が多い。富山県士会は修了者の割合が全国1位。修了で50ポイント中20ポイント取得となる。
 - ・現職者共通研修会のテーマ10「事例発表」を終えていない人が多い。
 - ・所属施設内等での事例発表をテーマ10に置き換えることができる。

平成25年度 第6回理事会

場所：富山医療福祉専門学校会議室

日時：平成25年12月2日(月) 19:00～

参加者：田村、作田、浅生、田邊、谷口、高林、橋爪、松岡、松本、丸本、吉波、広野

以下の事について検討した。

〈検討事項〉

1. 平成27年度日本作業療法士協会主催全国研修

会－招致決定、富山県作業療法士会は5名程度で実行委員会を作り、26年度開催県を視察する。研修会当日は、50～60名の運営スタッフを出し開催協力する。

2. 平成26年度事業計画案審議－概ね承認。詳細については、12月9日の全体会で話し合う。
3. 全体会の進行－①事業計画案の報告と調整、②各研修会の開催日時の検討、③質疑応答、④富山県士会リーダー研修会開催案内（H26年3月2日予定）
4. 東海北陸リーダー養成研修会－H26年3月8、9日ウィングあいちで開催予定。理事2名、部長3名出席予定。
5. 協会表彰規定の改定に対する県士会の対応－県士会が推薦するのは特別表彰のみとなり、しばらくの間はこれまで通り25年継続会員の人を対象とする。
6. 富山県医療推進協議会－12月18日(水)13:30～富山県医師会館で開催、県士会欠席。
7. WFOT大会スポンサー募集－田村会長、関係施設に依頼する。

〈報告事項〉

1. 東海北陸作業療法学会－参加者665名（県内303名、県外351名、学生14名）
2. 東海北陸支部会議アンケート－三役と企画調整局長にて話し合い、提出。
3. H26年度県学会－新川地区担当。学会長：山崎氏（かみいち総合病院）、実行委員長：中山氏（緑が丘病院）
4. 福祉用具相談支援システム－澤木氏の他アドバイザー、浅生氏（国立病院機構富山病院）、桐山氏（高志リハ病院）、武内氏（高岡整志会病院）、早川氏承諾。福祉用具相談支援システムについての広報をチラシ作成・士会ニュース・ホームページに掲載。
5. OT協会表彰推薦－館氏（富山赤十字病院）、小松氏（光ヶ丘病院）承諾。
6. 11月24日愛知県作業療法士会30周年&法人化記念式典－祝電
7. 健康と長寿の祭典－H26年11月27日(木)・28日(金)富山国際会議場で開催
8. 南砺市医師会在宅医療連携に関わる情報交換運営世話人会メンバーの推薦依頼－高橋氏（南砺訪問看護ステーション）推薦。

第13回 東海北陸作業療法学会を終えて —追記—

運営委員長 小倉 努 (黒部市民病院)

掲載を許可していただきありがとうございます。学会事業の終了にあたり、県士会ニュースへの寄稿依頼を受けたので意見をまとめていました。しかし、納得できる文面には至れず、補足できればと思い寄稿させていただきました。訴えることができなかった出来事を、ぜひともみなさんに知っていただきたいと思います。

さっそく話題を展開しますが、運営委員長の本懐は全体統括にあります。しかし成功の根底には、ともに取り組んだ運営委員が十分に役割を果たしてくれた「おかげ」があります。運営会議のみならず、仕事の合間を縫って、かつ休日に時間を作ったりして小さいものから大きなものまで打ち合わせを積み上げたことで生まれた成果だと思います。相互に意見し合い、時間や労力を注ぎ、各自仕事を抱えつつも、当日の「成功」に向けた目標・目的を維持し、実行に向けた活動を展開いただいた結果です。「連日、夜遅くまで掛かっても担った課題を丁寧に進める姿勢」「慣例に囚われず斬新な手段を見出し、意思・行動を貫く姿勢」

「正しい手段を決断し、一気かつ速やかに実行に移す姿勢」「手順を守り、落ち着いて取り組む姿勢」まだまだ挙げますが、キャリアを積み上げ造り上げた運営委員ひとりひとりの姿勢（やり方）を知りました。そして、期間を重ねるごとに相互理解の深まりを感じつつ作業を進められたと、振り返っています。2年間という長期に渡り、誰ひとり感情的に訴えることはなく、視線は常に取り組む課題を向くひたむきさを備えていました。頼もしい姿勢に言い尽くすことができない感謝が込み上げてきます。話は変わりますが、今、事業を通して参加し聴講した方々は「知識」を得ることができたと思います。しかし、運営委員は当日の役割に追われ、ほとんど聴講できなかったのが実際です。「学会に協力することで、お手伝いに時間を縛られ、聞きたい講演・発表が聞けない」という（協力者からの）訴えを度々耳にしました。想定内のことばでしたが、当日のみのお手伝いの方々から挙げたことは、僕としては非常に残念

でした。訴えた方々には、ぜひとも我々の収穫を知って欲しいと思います。学会準備を通しての収穫を端的に示します。①県士会の活動は、作業療法士同士が「お互いに理解する・できる」ことだと改めて気づかされました。②「理解」が広がることで、自分がする何十年に渡る作業療法の仕事に、大きな落ち着きを得ました。③そして、自分が考える・提供する作業療法に更なる期待を得ました。「参加費を払ったのに時間を制約される」のではなく、協力活動は作業療法士同士の理解を深めるということをわかっていただけることを願っています。今後、同じような声を挙げた人に対しては、自ら火を消すような方になって欲しいとも思います。

今、学会を通して非常に多くの会員さんを知ることができました。顔もわかればお話しをしたことも（当然ながら）ありましたが「人を知る」ことができたと思っています。いろいろな会員さんがおられますが、期待・可能性を見出せたことは心地よさを伴っています。自己満足かもしれませんが「この人はやるな！（よくやってくれるの意味です）」という場面がたくさんありました。運営委員からも、部署責任者からも、座長・発表者からも、協力者さんからもです。企画した全てをやり遂げた後に、声援・感謝などなど、多くの言葉を掛けていただきました。頂戴した声の全てが、富山県士会を思う気持ちの表れであると思います。学会の総評は厳しい見方が必要とは思いますが、奮闘のかけにある温かい出来事を表に出して、みなさんに知っていただくことは、今後の活力に繋がると思います。そして次に取り掛かる大事業では、パワーアップした富山県士会の力が発揮できると思っています。

もやもやしていた部分を埋めることができました。最後まで読んでいただきありがとうございます。賛否両論は世の常ですが、周囲の人たちに「良いこと」を伝えて行きたい・伝えていただきたいと思っています。

ほたるいかマラソンのボランティアに参加して

西能病院 作田甚太郎

私は10月13日に滑川市が主催するほたるいかマラソンに給水ボランティアスタッフとして参加しました。きっかけは県士会の話し合いで「OTをもっと広めていこう」「社会参加する団体にしよう」という意見が出されたことが始まりでした。

そして今回、県士会としてほたるいかマラソンの給水ボランティアに参加することになり、責任者を私が務めることになりました。マラソン大会の数日前に行われたスタッフ会議に参加したのですが、平日にもかかわらずたくさんの滑川市民のボランティアスタッフが集まり、大会にかける思いに圧倒され「スタッフとして迷惑をかけないようにしなければいけない」と身が引き締まりました。

そして市民やランナーの熱い気持ちが天に届いたのか、当日は晴天。まさにマラソン日和でした。集まってくださった県士会の方々も各々の給水ポイントに別れ、スタッフとして働いてもらいました。私はホテルイカミュージアム前を担当しました。給水ボランティアの内容は設営から給水の準備、水を含ませたスポンジの準備、ランナーが捨てたコップやスポンジの回収が主な仕事でした。ピーク時はたくさんのランナーが押し寄せ、予想以上にあわただしく、本当に大変な作業でした。しかし、ランナーの方々が「ごちそうさまです

「給水ありがとう」と優しい声をかけて下さり、応援する側の私が逆に励ましてもらいとても嬉しかったです。

今回「県士会として社会参加の機会をつくる」をテーマに初めての試みでありましたが、ランナーとして5名、ボランティアスタッフとして31名の県士会の方が参加してくださりました。参加してくださったみなさん本当にありがとうございました。また機会があれば来年以降もこうしたボランティア活動に参加していければいいと思いました。私個人にとっても、とても楽しく貴重な時間を過ごすことができました。



福祉用具相談支援システムの導入について

介護実習・普及センター 非常勤OT 澤木 佳子

日本作業療法士協会では、webを利用して福祉用具相談支援システムを構築しており、富山県作業療法士会においても相談アドバイザーを置きこのシステムを利用できるようになりました。

福祉用具の研修や自習は介護職員に対しては多く行われています。しかし、OTがその関係者に対して用具の提言、助言などに関わることは少ないようです。一方、医療機関で働くOTは身体機能面への働きかけに偏りがちになっていると思います。

OTが対象とする人たちが社会や家庭でより良い生活を送るためには、身体や知的・精神機能面だけでなく、家庭や地域などの生活環境も重要な

要因です。福祉用具を活用することにより、対象者・介護者共に生活が快適になり、行動が拡大される場合が多くあります。OTはリハビリテーションの初期から福祉用具への関心、活用する視点をもつことが必要ではないかと思えます。

富山県士会の相談アドバイザーとして早川俊秀、浅生弘美（国立病院機構富山病院）、武内あけみ（高岡整志会病院）、桐山由利子（高志リハ病院）、そして澤木佳子がそれぞれの得意分野をもって皆さんの相談にあたります。

このシステムの利用の仕方、および相談アドバイザーの紹介は同封の案内をご覧ください。

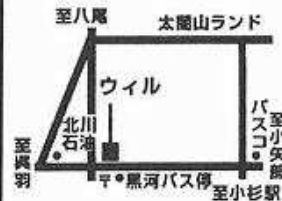
介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子
→ 480円より
ベッド
→ 700円より

リースナブル



株式会社 **ウィル**
TEL (0766) **56-7099**
FAX 56-3395



手芸・毛糸の店

- | | |
|---------|-----------|
| ○手芸糸 | ハマナカ |
| ○刺し子 | オリムパス、ナスカ |
| ○ビーズ手芸 | トーホー、ミュキ |
| ○マクラメ糸 | ダルマ、川端 |
| ○ちりめん手芸 | 東芸 |
| ○その他 | S.M、M.B 他 |
- 各手芸材料取り扱っています。



ボタン・手芸・毛糸

スギマサ

〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9
TEL (076) 421-3444
FAX (076) 421-4334

Toyama

Prostheses & Orthotics Service

<http://www.tpo-morita.com>



【営業品目】

義手・義足・補装具等 製作修理
オーダーメイド靴 製作
車椅子・スリッパ・補聴器
福祉用具貸与販売

お取付の、お見積りもお気軽に承ります

Oticon | Agil



(株)富山県義肢製作所

富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市外町1丁目2-16

TEL (076) 421-4279

FAX (076) 421-1546

E-mail: t-cb@toyama.ocn.ne.jp

お詫び

前回のニュース表紙に掲載しました東海北陸作業療法学会案内文が、こちらの不手際により学会終了後の発送となったことをお詫びいたします。

今後はこのようなことがないように運営していきたいと反省しております。

みなさまにとって、ニュースが情報発信として役立てられるように活動していきますので、今後ともよろしくお願いたします。

広報部

■ O T を取り巻く状況

田村 良子

お知らせに掲載しているように、福祉用具相談支援システムの運用が開始されます。協会の事業に対して、澤木氏に説明会に出席していただき、準備をしていただきました。前回のこのコーナーに生活行為向上マネジメント、特別支援教育への取り組みを紹介しましたが、この後も認知症初期集中支援チーム、災害対応、障害者福祉事業への取り組みを始めていかなければなりません。それぞれに協会の研修会があり、県士会から核になっていただく方を派遣し、新たな人材を発掘してもらいながら取り組んでいきたいと思えます。このような協会の事業を県で実施していくための部署を企画調整局とし、それぞれ委員会として活動していくようにします。12月9日に全体会を開き、来年度の事業計画の審議をしましたが、どの部もこれまでと同じ事業ではなく、一回り大きくしてもらおうようお願いしました。そうすると今のような限られたメンバーでの運営はできません。今一度会員に声をかけ、どのような役割を担えるのか話し合っていかなければなりません。3月2日に総会を開催しますが、その前の時間にリーダー研修会を開き、まず職場のリーダーが協会、士会の事業方針を知り、作業療法の普及・広報および地位向上にあたり、また若い会員が活動しやすくする必要があります。

では、なぜそんなにしなければならないのか？「働いていれば相応の給料がもらえるのだから…。」と思っている人もいるかもしれません。でもそれは協会が厚生労働省を始め、関係機関に働きかけているおかげであり、何もしなくても作業療法士という職業が永遠にあり続けるわけではありません。作業療法を世間の皆さまに知ってもらい、活用してもらい、また最良のサービスを提供するよう研鑽し続けることでO T は生き残れるのです。

今年の流行語大賞の「いつやるの？今でしょ！」の気概でいきたいものです。また、世間を賑わした食品の「虚偽表示」と同じようにならないように各自、各職場の自己点検が必要です。

賛助会員名簿

(順不同)

会員名(代表者)	住所	備考
温泉リハビリテーション いま泉病院 (理事長 大西仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 T E L.076-425-1166	
(株)ウイール (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 T E L.0766-56-7099	
酒井医療(株) 金沢オフィス (リーダー 小松 勉)	〒921-8036 金沢市弥生2-6-16 1F T E L.076-241-5721	
平野 淑子	〒930-0008 富山市神通本町2-3-7 T E L.076-432-6617	(有) クラブト 工房
富山医療福祉専門学校 (学校長 辻 政彦)	〒936-0023 滑川市柳原149-9 T E L.076-476-0001	
(株)スギマサ洋装店 (代表取締役 杉政正規)	〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9 T E L.076-421-3444	

編集後記

最近好きな文字を載せました。一見漢字にみえて、平仮名でも「ありがとうございます」と書かれてある文字です。今年1年を振り返り、最後に皆様のご協力に感謝とありがとうございますを関係各所に伝えることができれば幸いです。

今年度もよろしくお願いいたします。

S・M

